

# 聖徳太子信仰と美術

## —変容する太子像—

2025年の大阪・関西万博の開催にあわせ、古代、奈良大和の地から大阪難波を經由することで海外と積極的に交流をもった聖徳太子に焦点をあてた講演会を開催します。今回は、特に聖徳太子信仰について、文学と美術史の両方から検討を加え聖徳太子像の実態に迫ります。

《参加費 無料》

日時 2025年9月27日(土)  
13時～17時30分(予定)  
(12時30分開場)

会場 奈良女子大学  
S棟235教室ダイダンホール  
※対面形式とオンライン形式の併用

申込方法：事前のお申し込みが必要です。9月19日(金)締切

申込フォーム：<https://forms.gle/9BjuatMEpAU2AHBr9>  
(右のQRコードからも申し込み出来ます→)

問合せ先：奈良女子大学 古代学・聖地学研究センター  
e-mail：[kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:kodaigaku@cc.nara-wu.ac.jp)

主催 奈良女子大学 文学部

共催 奈良女子大学 古代学・聖地学研究センター



## 【講演会】

### ○聖徳太子の生涯はどのように描かれてきたのか

講師 長崎外国語大学外国語学部 教授 松本 真輔

聖徳太子の伝記は、古代から現代まで、多種多様に、大量に作られ続けてきました。今回の発表では、その歴史的展開を概観した上で、具体的な内容として、中世に編纂された作品群を中心に、聖徳太子十六歳条——仏教の受け入れをめぐる物部守屋と聖徳太子が対立した（とされる）合戦譚——を見ていきたいと思ひます。

### ○法隆寺金堂釈迦の世界

講師 奈良国立博物館 主任研究員 三田 覚之

聖徳太子の病氣平癒を願って発願され、その没後に完成した法隆寺金堂の釈迦三尊像は、太子周辺の仏教思想や世界観を濃厚に伝える存在です。今回は特にこれまであまり注目されてこなかった像の台座画を復元的に読み解くお話しをします。日本仏教に多大な影響を与えた聖徳太子の実態に迫る上で、その大きな手掛かりになるものと考えています。

### ○聖徳太子像の成立と変容

—観音・高僧・御神体としての性格に注目して—

講師 大阪大学大学院人文学研究科 教授 藤岡 稜

聖徳太子は奈良時代に絵伝の中で幼児、童子、成人の三種に描き分けられたとみられます。平安時代には天台高僧とともに描かれ、僧衣を着た太子像が成立し、四天王寺において童子、成人の彫像が作られ、これらが太子像の原型となりました。そうした太子像の成立事情と、観音や神としての性格を与えられ展開した中世以降の太子像の変容についてお話しします。

## 【討論会】

司会 奈良女子大学文学部 准教授 佐藤有希子

※奈良女子大学では、2025年の大阪・関西万博の開催にあわせ、以下のような活動を行ってきました。詳しくは本学HPで。

- ・開幕1年前イベント「NARA YOUTH EXPO」(2024年4月20日)にて工学部中田大貴教授の講演。
- ・けいはんな万博「ウェルビーイングフェスティバル」(2025年6月13～15日)にて、古代学・聖地学研究センター協力研究員前川佳代さんが再現した「甘葛シロップ」を使ったかき氷を来場者に提供。
- ・大阪・関西万博のウーマンズパビリオン「WA」スペースにて(2025年7月17日)、次世代の女性エンジニア育成をテーマにしたイベントを開催。

